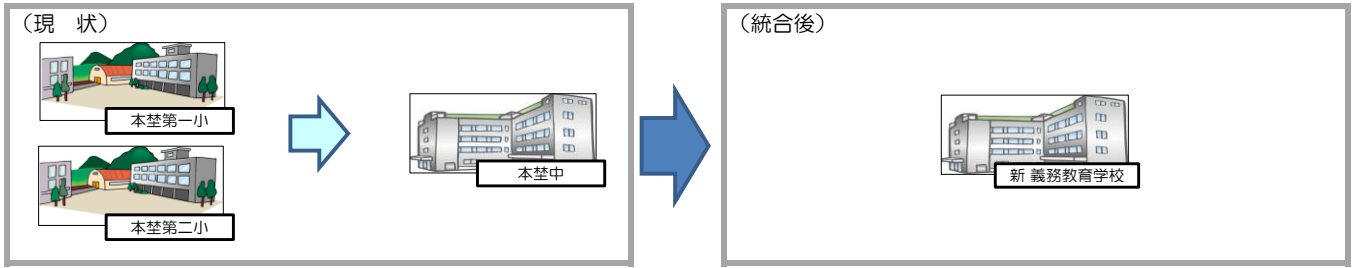


学校適正配置のシミュレーション（案）【本塾第一小+本塾第二小+本塾中】



項 目	本塾第一小学校	本塾第二小学校	本塾中学校	新 義務教育学校
① 所 在	印西市中根1281-2	印西市笠神1745	印西市笠神250	印西市笠神250 (本塾中学校を拠点とした場合)
② 開 校 年	明治21年	明治6年	昭和22年	
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 7教室 (H27: 特支 2教室)	総数 7教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 45名 → H33: 78名 33名の増	H27: 67名 → H33: 36名 31名の減	H27: 62名 → H33: 47名 15名の減	H27: 171名 → H33: 161名 10名の減 (左記小中学校の合算値)
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 6学級 → H33: 5学級 1学級の減	H27: 3学級 → H33: 3学級 増減なし	H27: 9学級 → H33: 9学級 増減なし (左記小中学校の合算値を基に算出)
⑥ 通学区域	東西: 約5.9km・南北: 約3.9km 遠距離地域: 直線 約2.4km・道路 約3.2km	東西: 約5.0km・南北: 約4.7km 遠距離地域: 直線 約2.8km・道路 約3.9km	東西: 約7.8km・南北: 約6.4km 遠距離地域: 直線 約4.5km・道路 約5.5km	東西: 約7.8km・南北: 約6.4km 遠距離地域: 直線 約4.5km・道路 約5.5km
⑦ 教育目標	自ら考え行動できる 心豊かでたくましい子どもの育成	豊かな心を持ちたくましく生きる 児童の育成	豊かな心を持ち、一人ひとりの生徒が 光かがやく学校	
⑧ 学区外就学 の状況 (出)	H27: 対象者18人/学区の児童数62人 割合: 29.0% 主な就学先 滝野小学校	H27: 対象者5人/学区の児童数71人 割合: 7.0% 主な就学先 小林北小学校	H27: 対象者12人/学区の児童数71人 割合: 16.9% 主な就学先 滝野中学校	
⑨ 学校等の特徴	・学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。 ・学区が広い児童は徒歩とスクールバスで登下校している。 ・専業農家は少なく兼業農家がほとんどである。 ・地域、保護者の教育への関心は高く、歴史ある学校を大事にしようとする気風が代々引き継がれている。 ・地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。 ・児童は明るく、素直でありのびのびと学校生活を送っている。	・本校は市の北東部に位置し、周辺には印旛沼の水を利用した田園風景が広がっている。 ・冬になると近くの田んぼに1000羽を超える白鳥が飛来する。 ・学校では、この豊かな自然環境を生かした教育活動を地域の方々の協力を得て進めている。こうした活動が野生生物の保護活動として認められ、平成27年度に日本鳥類保護連盟から表彰を受けた。 ・体力・健康づくりにも励んでおり、平成24年度・25年度の2年連続で、千葉県教育委員会より「元氣アップ・プラン大作戦コンクール」の優秀賞を、また、平成26年度には「学校健康教育表彰」を受けた。	・本校はJR成田線小林駅から南東へ約2km、徒歩20分に位置し、利根川、印旛沼と隣接している水郷地帯と台地を中心とした2つの地域で構成されている。 ・学区の大半は米作を中心とした豊かな農業地帯として発展してきたが、現在は夫婦共働き兼業農家が、三世大家族が大半を占めている。 ・地元への愛着心が強く、またPTA・学校行事等、学校教育活動に対しても協力的である。	

<児童数・学級数の推移>

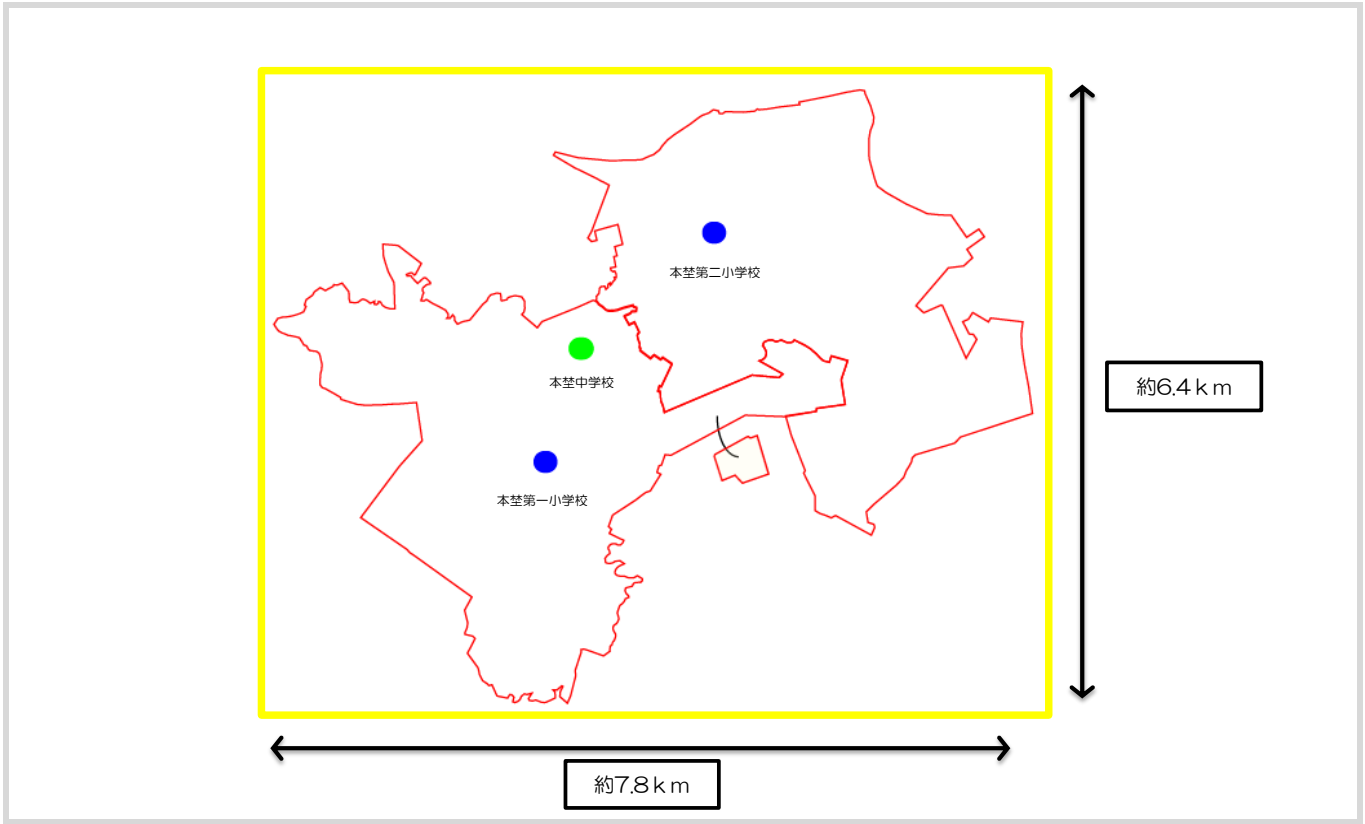
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本塾第一小学校	45	5	45	5	55	5	67	6	73	6	79	6	78	6
本塾第二小学校	67	6	58	6	52	6	44	6	44	5	39	5	36	5
新 義務教育学校 前期課程	112	6	103	6	107	6	111	6	117	6	118	6	114	6
新 義務教育学校 後期課程	59	3	64	3	65	3	65	3	52	3	51	3	47	3
新 義務教育学校 全体	171	9	167	9	172	9	176	9	169	9	169	9	161	9

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学 (道路)	特記事項
本塾第一小+本塾第二小+本塾中⇒新 義務教育学校 (前期)	小規模	×	△	・小中一貫の義務教育学校となる。 ・前期課程及び後期課程ともに学校規模が適正配置後も小規模校となる。 ・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。
本塾第一小+本塾第二小+本塾中⇒新 義務教育学校 (後期)	小規模		○	

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 遠距離通学 (道路): ○…通学距離が4.0km以下 (中学校は6.0km以下) △通学距離が4.1km以上 (中学校は6.1km以上)

<通学区域図>



<小中学校分布図（航空写真）>

